

令和四年度四月編入学 大学院人文科学府博士後期課程入学試験問題

(東洋史学)

次の各問に答えなさい。(解答は解答紙に記入)

問 I 清代中期の穀物余剰省・穀物自給省・穀物輸入省の分布を概観し、各地域間における、①米穀・②麦と雑穀・③大豆の流通状況を総述しなさい。

問 II 次の各語について、簡明に説明しなさい。

- ① 奏銷
- ② 酌撥
- ③ 舵工
- ④ 南漕御史
- ⑤ 大同法
- ⑥ 常平通宝
- ⑦ 毛文龍
- ⑧ 王業鍵
- ⑨ 『池北偶談』
- ⑩ 『石渠余記』

問Ⅲ 次の史料を書き下し文にしなさい（解答の字体は常用漢字でも可）。

水軍虞候金守基牒呈。異様船漂到洪州地、言語不通、以書問之、答云「大清國山東登州府福山縣人民船戶安永和、因奉天省裝糧一載、運往山東、交結糧客、在山東、因遭風患到此」。現有船票一尙爲正」云。而自囊中、出票文一張、名錄一張、現納票文、即印出書也。字畫漫漶、有難逐字詳知。（中略）

又問「行客四名、貿易何物」。答云「俱係糧客隨船、雜糧俱在船上」。又問「爾們大海逢風、累日漂流之際、俱得無患耶」。答云「幸蒙神聖保護、無傷舵竝大棹、所以莫傷一人」。又問「爾們船中裝糧外、又有他物耶」。答曰「略有零物。是隨船行客隨身代的、別無他物」。（中略）

船隻、則自船頭至船尾、當中有板屋、而上下鋪板、其額題曰「順風相送」。中有畫佛像一張紙、左右板壁與船幅付接處、以油灰塗之、所謂倉盒口。自板屋連接九間、而每一間長廣、各爲半把、各其倉內、山稻米・糖米・粟米・耳牟米・木麥等穀、入盛布袋、充滿莊置、數三日內、勢不能點閱。船長十五把、廣四把、皆用鐵釘。第二間撐鐵鼎二坐、第三間別加塗灰、造水倉盛水、前帆竹十一把。今番逢風漂流時、腰折中帆竹九把、後帆竹五把、皆用白木帆。（中略）

舟什棚索汲水小船一隻、皆如我國船制様、碇索・龍層索・倒入索・旨索等屬、或黑或白。問「是何物」。曰「棕樹皮也」。又有綿花裏簞二、封角所載物種、皆是商販之資。初則互相引接於本島草幕、今則恐失船中所載穀物、皆不肯下陸、故多定將吏、另加申飭。

（朝鮮『正祖實錄』乾隆五十六年十二月十八日）